事　業　名	地域総合オアシス整備事業（ため池等整備事業）	事業主体	大阪府
所　在　地	泉南市	地 区 名	泉南地区
再評価理由	②事業採択後５年を経過　　採択：Ｈ５年度	工　　期	Ｈ５年度～H15年度

事業概要	目　　的	本地区は、金熊寺川水系の主要な８箇所の老朽化したため池及び水路の改修と、修景護岸や遊歩道の整備を行い、地域全体の安全なまちづくりと、地域の人々に「うるおい」と「やすらぎ」を与える水辺環境を創造することを目的とする。
	内　　容	ため池改修８箇所（本田池、座頭池、真宮池、君ガ池、双子池、鬼木池、新池、道光寺池）、水路整備１箇所（石谷水路）、遊歩道整備１式、親水・景観のための施設整備１式 事業費 1,769,700千円
進捗状況等	進捗状況	完了　４箇所（本田池、座頭池、真宮池、君ガ池） 工事中２箇所（鬼木池、双子池） 工事進捗率 71.7%
	残 事 業	未着手３箇所（新池、道光寺池、石谷水路）
	事業着手	平成５年度
事業を巡る社会経済情勢等	歴史的背景	泉南市域は男里遺跡（双子池周辺）や幡代遺跡（道光寺池周辺）からの出土品により、既に縄文、弥生時代から集落が存在していたことが確認されている。 古墳時代になると大陸との交流が盛んになり、白鳳時代から天平時代にかけて、この地域にも多くの寺院が建立され、同時に農業用水確保のためのため池も数多く造られた。それらのため池の一部は、今日も現存している。
	地域の状況	金熊寺川下流に位置する本地区は、古くからため池を用水源として、水田農業を営んできた地域で、水稲の他にたまねぎ、里芋、キャベツ等が作付けされており、中でもたまねぎの一大生産地を形成している。 泉南市には、水面積が 1,000㎡以上のため池が99ヶ所存在しており、このうち本地区のため池群は水田の主要な水源としてだけでなく、防火・生活用水等の地域用水としても重要な水源池となっている。 近年これらのため池は、老朽化が進み、堤体の浸食が著しい状況にあり、一部漏水も起こっており、危険な状態にある。 一方、周辺の都市化が進む中、農業用水の確保だけでなく、ため池を活用した安全まちづくり、快適な環境づくりが望まれている。

事　業　名	地域総合オアシス整備事業（ため池等整備事業）	地 区 名	泉南地区

事業を巡る社会経済情勢等	社会経済情勢の変化	ため池は、農業用水の確保はもとより豪雨時に洪水被害から下流地域を守る防災機能も有している。しかし、築造以来長い年月を経て老朽化が進んでおり農業団体はもとより周辺住民からの改修要望が増加している。 オアシス構想策定(H3)の際に行ったため池関係のアンケート調査（無作為に抽出した20歳以上の府民 1,000人を対象）では、府民はため池のもつイメージとして、「農業用水」との意見が47.1% を占めている。一方、農業用水としての利用度が減ったため池については、「保全しつつ地域ニーズを考慮した利用をすべき」や「現在もっている効用を利用すべき」等の潰廃すべきでないという意見が88.1%を占め、さらにため池の整備の方向としては、「散歩」「生態観察」「魚釣り」「休息」等多様な整備内容を望んでいる。 また、平成９年の府政モニター 300人に行った、農空間基本方針策定調査によると、ため池を含む農空間への期待については「農空間の余暇的活用」が56.5% 、「農空間の保全・整備」が37.0% 、「交流・PR・イベント」が33.3% 、「教育・福祉的活用」が21.3% 、「食料生産」が17.0% であった。 以上の結果から、ため池については、災害時に水や空間が利用できる地域防災機能や、生態系保全、自然学習、レクリエーションのための空間としての機能に対する府民の関心と要望が高まっていることが伺える。
事業効果（費用対効果分析等）		別紙― １参照
	コスト縮減策	ため池の浚渫土を利用した広場等の公共用地の造成
その他特記事項		本事業は、ため池が群となっている地域において、河川の水系ごとにつながっているため池を総合的に整備し、広範な地域の防災対策、環境整備を重点的に行うものである。 事業完了後の清掃、補修等、施設の維持管理は、地域住民や地元水利組合等が行う。

（事業概要図）別紙― ２参照